

1 沿革

昭和 24 年 5 月	国立学校設置法による横浜国立大学の設置により、附属図書館が設置された。
10 月	学芸学部分館、経済学部分館及び工学部分館が設置された。
昭和 25 年 3 月	附属図書館規則を制定した。
昭和 26 年 4 月	学芸学部分館立野分室が設置された。
昭和 28 年 4 月	学芸学部分館立野分室が学芸学部横浜分館と改称された。
昭和 39 年 5 月	工学部分館が大岡地区に竣工した。
昭和 41 年 4 月	学芸学部の名称変更に伴い、学芸学部分館を教育学部分館、学芸学部横浜分館を教育学部横浜分館と改めた。
昭和 46 年 3 月	教育学部横浜分館を廃止した。
昭和 47 年 4 月	横浜国立大学附属図書館運営委員会を設置した。
昭和 49 年 6 月	中央図書館が常盤台地区に竣工（RC4F 3,957 m ² ）した。 経済学部分館が経済学部研究棟内に竣工（RC2F 1,290 m ² ）した。
昭和 49 年 9 月	本館、教育学部分館及び経済学部分館が常盤台地区に移転した。
昭和 51 年 4 月	附属図書館規則の全面改正に伴い、各分館を廃止し、教育分室、経済・経営分室及び工学分室を設置した。 附属図書館運営委員会規程、附属図書館利用規程及び附属図書館長選考規程を施行した。 事務組織が統合され、事務部課制が実施された。
昭和 51 年 10 月	「館報」を創刊した。
昭和 54 年 2 月	電算機(ACOS 200)を導入した。
昭和 54 年 3 月	工学分室が常盤台地区に竣工（1,930 m ² ）した。
昭和 54 年 4 月	雑誌受入業務のオンライン処理を開始した。
昭和 56 年 4 月	附属図書館規程を一部改正し、従来の中央図書館及び各分室を、中央図書館（教育科学・人文科学研究フロアを含む。）、社会科学系研究図書館及び理工学系研究図書館に改めた。
昭和 60 年 7 月	中央図書館 2 号館増築工事（3,492 m ² ）が竣工した。
昭和 62 年 1 月	新電算機システム（NEC150/78VS）を導入した。（業務用パッケージ LICSU）
3 月	学術情報センターに接続した。
昭和 63 年 2 月	一般市民利用への対応要項を策定した。
昭和 63 年 12 月	電算機システムを更新した。（NEC3100/70A）
平成 4 年 4 月	学術情報センター ILL システム（NACSIS-ILL）稼働に伴い、オンラインによる図書館間相互利用サービスを開始した。
平成 5 年 4 月	社会科学系研究図書館に「社会科学系学術雑誌フロア」及び保存書庫を設置した。
9 月	蔵書冊数が 100 万冊を突破した。
10 月	中央図書館の土曜日開館を開始した。
平成 6 年 3 月	保存書庫（社会科学系研究図書館）に集密書架を設置した。
7 月	インターネット及び電話回線による OPAC サービスを開始した。
平成 7 年 3 月	CD-ROM サーバシステムを導入した。
12 月	電算機システムを更新した。（業務用パッケージ LINUS/U）
平成 8 年 3 月	入退館管理システムを導入した。
7 月	ホームページの試験運用開始
11 月	学術情報センター学術雑誌目次速報データベース形成事業への参加
平成 9 年 2 月	インターネット用パソコン 7 台増設（総合情報処理センターから移設）
7 月	学内発行学術雑誌目次情報検索システムの実施
10 月	理工学系研究図書館の土曜日開館を開始した。
平成 10 年 1 月	「横浜国立大学附属図書館沿革誌」の刊行
4 月	総合情報処理センターの協力（パソコン 27 台移設）によりマルチメディアパソコンコーナーを開設した。
平成 11 年 4 月	中央図書館、理工学系研究図書館の平日夜間開館を 1 時間延長した。 WEB 対応 CD-ROM サーバシステム及び画像データベースサーバを導入した。
5 月	中央図書館に国際交流コーナーを設置した。
12 月	電算機システムを更新した。（業務用パッケージ NALIS）
平成 12 年 3 月	「附属図書館のトータルデザインに関する調査研究プロジェクト」（平成 11 年度実施）報告書を学長に提出した。
4 月	コンソーシアムによる電子ジャーナルサービスを開始した。
5 月	学内 LAN 利用のオンライン文献複写申込み（ネットオーダー）を開始した。 中央図書館に放送大学視聴コーナーを設置した。
10 月	情報リテラシー教育の一環として図書館主催による総合領域「知の回廊」（平成 12 年度後期）を実施した。
11 月	「横浜国立大学中央図書館施設基本計画」を策定した。

平成 13 年 6 月	中央図書館新営・改修工事が着工された。
11 月	「横浜国立大学附属図書館における情報リテラシー教育のあり方《グランドデザイン》」を策定した。
平成 14 年 11 月	中央図書館新営・改修工事が竣工（12, 231 m ² ）した。
平成 15 年 4 月	中央図書館がリニューアルオープンした。
5 月	中央図書館竣工記念式典・祝賀会を挙行了した。
平成 16 年 4 月	中央図書館にシラバス掲載図書コーナーを設置した。
	一般市民（県内在住・在勤・在学）への貸出サービス（要「学外利用登録」）を開始した。
7 月	中央図書館及び理工学系研究図書館の休日開館（授業期間中の日曜日・祝日）を開始した。
10 月	本学卒業生等への貸出サービス（要「学外利用登録」）を開始した。
	中央図書館メディアホール及び情報ラウンジを授業期間中の土・日・祝日にも講演会、展示場として利用可能とした。
12 月	図書館業務用電算機システムを更新した。（業務用パッケージ NALIS）
平成 17 年 1 月	中央図書館の自動貸出装置が更新（1 台）・増設（1 台）されて 2 台となった。
2 月	オンライン・リクエストサービス（貸出中国書予約、貸出・予約状況確認、ILL 文献複写・図書借用申込）を開始した。
3 月	神奈川県立川崎図書館との連携協力（巡回連絡車を利用した相互貸借）に関する覚書に調印した。
	中央図書館の土曜日・日曜日・祝日開館時間を 30 分延長した。
4 月	神奈川県立川崎図書館と相互貸借（無料）サービスを開始した。
	カラーコピーサービスを開始した。
	中央図書館に教科書（県内の小・中学校で使用）コーナーを設置した。
11 月	図書館利用者アンケート調査を実施した。
平成 18 年 4 月	事務組織改編に伴い、図書館事務部が廃止され、事務局に図書館・情報部が設置された。
5 月	神奈川県立川崎図書館の巡回車により神奈川県立図書館所蔵図書の貸出サービスを開始した。
7 月	「横浜国立大学学術情報リポジトリ運営委員会規則」「横浜国立大学学術情報リポジトリ運営指針」が定められた。
10 月	中央図書館に新書コーナーを設置した。
11 月	（社会科学系）総合研究棟Ⅰの改修に伴う社会科学系研究図書館の改修工事が着工された。
平成 19 年 3 月	神奈川県立図書館との相互協力協定調印式が行われた。
	横浜国立大学学術情報リポジトリを試験公開した。
4 月	社会科学系研究図書館がリニューアルオープンした。
	神奈川県内図書館情報ネットワーク「KL-NET」に加入した。
	中央図書館に市民ボランティア（2 名）を受け入れた。
平成 20 年 3 月	中央図書館及び理工学系研究図書館の入館管理システムを更新した。併せて、中央図書館の退館システムとメインカウンターのレイアウトを変更し、エントランスのイメージを刷新した。
	情報基盤センターにより、新たに中央図書館 2 階リフレッシュルーム、3 階パノラマ閲覧席、理工学系研究図書館 1 階閲覧席に無線 LAN アクセスポイントが設置された。
	中央図書館メディアブースの放送大学コーナーを廃し、衛星放送視聴のための設備を整えた。
4 月	緊急地震速報の放送設備が設置された。
10 月	横浜国立大学学術情報リポジトリを正式公開した。
11 月	CD-ROM サーバの運用を停止した。
平成 21 年 6 月	中央図書館に市民ボランティア（1 名）を受け入れた。（7 月と 11 月にも 1 名ずつ受け入れた。）
12 月	図書館計算機システムを更新した。（業務用パッケージ NALIS）
平成 22 年 3 月	中央図書館書庫、集密書架の資料再配置を行った。
	中央図書館 3 階 AV エリアの視聴覚機器を更新した。
4 月	図書館ホームページでの、メディアホール及び情報ラウンジの施設予約サービスを開始した。
6 月	大学ウェブサイトの全面リニューアルに伴い、図書館ホームページをリニューアルし、公開した。
9 月	図書館ホームページでの、ワーキングスタジオの施設予約サービスを開始した。
平成 23 年 4 月	情報基盤センターにより、新たに中央図書館 2 階及び 3 階のワーキングスタジオ前に無線 LAN アクセスポイントが設置された。
10 月	中央図書館の 8 時 40 分開館の試行を開始した。
	ラーニング・アドバイザー（LA）の運用を開始した。
11 月	中央図書館に市民ボランティア（1 名）を受け入れた。
平成 24 年 4 月	中央図書館の 8 時 40 分開館を正式に開始した。
	中央図書館に市民ボランティア（1 名）を受け入れた。（8 月と 12 月にも 1 名ずつ受け入れた。）